

# 『だれかの笑顔のために』

## だれかの笑顔のために

今年の学校だよりのタイトルを「だれかの笑顔のために」としました。「誰かのために」という言葉はずっと大切にしていた言葉です。そのきっかけはある講演会でした。その講演会で、講師の先生が、「すべての成功者に共通することを探してみた」という話をされたのです。すべての成功者に共通することとして次のように話されました。すべての成功者は自分の利益のためだけでなく「自分以外の誰かの幸せのために行動した」というのです。



そこで頭に浮かんだのが、大谷選手です。大谷選手は日本中の全ての小学生のために、グローブを寄贈してくれました。本校でも、大谷グローブを手にして笑顔になり、キャッチボールを楽しんだ子どもたちの姿がありました。

もうひとつ、セブン銀行の話を思い出しました。みなさんもよく知っているコンビニエンスストアのセブンイレブンにはセブン銀行といって、銀行に行かなくて

もお金を下ろしたり、入金したりできる機械があります。二年前、そのセブン銀行を立ち上げたセブン銀行代表取締役 二子石会長のお話を聴く機会がありました。二子石会長は熊本出身の方です。二子石会長は、セブン銀行を立ち上げた理由のひとつを次のように話されました。

日本には、外国から働きに来られている方がたくさんいらっしゃる。その方々は自分の国の家族に仕送りをされるのだが、仕事の関係で銀行が開いている時間に送金ができず困っていらっしゃる。そこで、もっと簡単にいつでも送金できる方法はないかと、セブン銀行を立ち上げる決心をされたのだそうです。会長の思いは、日本に来ている外国の方のためだったのです。最初はみんなから反対されたのだそうですが、それでもセブン銀行の立ち上げに向けて努力され、今では多くの方が利用するとても便利な銀行になっています。



二人とも、その行動のきっかけは「誰かのために」だったのです。

最近、とてもうれしいことがありました。

本校は、毎朝ボランティア活動に取り組んでいます。私も、西門付近の掃き掃除を終えた後、サッカーゴールの下の雑草が気になり、草取りをしていました。そろそろボランティアの時間も終わりだと思っていると、ボランティア活動を終えた6年生の女子二人が、私の方に向かって走ってくるのです。何かあったのかなと待っていると、サッカーゴールのところに来て草取りを始めてくれたのです。しばらくすると、ボランティア活動の時間の終わりを告げるチャイムが鳴りました。6年生の女子二人は、「少ししかできなかった。」と残念そうに教室に戻っていきました。私は、「ありがとう。」と声をかけることしかできませんでしたが、心の中は感動でいっぱいでした。自分の仕事が終わったあとに、それこそ「誰かのために」行動できる菊水小の子どもたちが育っていることを実感することができたからです。この感動をだれかと共有したくて、すぐに担任の先生にこの出来事を伝えました。

学校では、教師が子どもたちに教えることばかりでなく、子どもたちから教えられることもたくさんあるのです。